


地域とのかかわりを学び合える児童の育成をめざした PTA 活動

～地域とのかかわり合いを児童に伝えるのは我々親世代～

| | | |
|------------|--|---|
| PTA名称 | 久米小学校 育友会 |  |
| 所在地 | 周南市久米3417番地 | |
| 学校地域の概要・組織 | <p>本校は、周南市の中央部、下松市に隣接した位置にあつて、交通の要衝である。もともと本地区は農業地域であったが、近年新興の住宅団地が次々と造成された市内でも変貌の激しい地区でもある。人口1万人に迫る旧市街地屈指の発展地域となってきた。また、山陽自動車道徳山東インターの設置や南部の商工業地域とを結ぶ大型道路の整備が急速に進み、大型商業施設が出店し、今後ますます児童数が増加しそうである。</p> <p>本校育友会は、地域と学校を結ぶための架け橋的な存在である。歴代の会長が地域の他の団体組織の中心的存在になっており、学校と地域を結びながら、久米っ子を地域全体で育てている伝統と誇りをもって、育友会活動を行っている。それぞれの部で、</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報部—喜びにつながる広報誌づくり バザー部—児童が楽しめる友愛バザーの企画 研修部—多くのことを学ぶための研修会開催・参加 環境整備部—学校を美しくする美化活動実施 保健体育部—育を広める給食試食会の企画 交通補導部—児童が安心して通える登下校のサポート | |
| 研究テーマ | <p>コロナの影響で、育友会の行事等を中止や縮小をしてきた3年間から明けて、今年度改めて育友会の意義・各行事の目的などを考えながら、どの程度やるか一つ一つの行事をこなしてきた。「地域とのかかわり合いを児童に伝えるのは我々親世代」をキャッチフレーズにし、多くの保護者を巻き込んで、多くの児童に学びにつながるよう取り組んでいきたい。</p> | |

| | |
|--------------|---|
| <p>成果と課題</p> | <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童と地域、保護者のかかわる行事や取組がコロナ禍からほぼ復活してきた。育友会や地域の諸団体、おやじの会と活動する機会をとり、かかわりを深めることができた。 ○ 執行部を中心に、どの部も活動にも積極的に取り組めた。コロナ禍で継続的に取り組めていなかった活動も多く復活することができ、子どもたちに多く還元できた。 ○ 会員間の連絡を SNS や配信アプリを利用することで、こまめな連絡や全体の意向を聞くアンケートが実施でき、情報連絡の手間が省けた。 ○ 太華中学校校区での小中連携の在り方を考える機会が増え、深まった。小中連携で、地域や保護者全体を視野に入れての活動を増やした。特に「小中合同引き渡し訓練」では、小中合同開催し、保護者と学校、地域の連携で無事引き渡しができ、手応えがあった。 ○ 多くの役員で各種行事の準備・後片付けを率先して行えた。特に久米地区最大のイベント夏祭りでバザーを開催したり、子どもファーストな育友会バザーを企画開催したり、多くの会員が協力して動く姿が見られた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種行事をコロナ禍前の様子を手探りながら実施した今年度だった。資料をデータ化し、引き継ぎをしっかりとしていく。また、児童数が今後増加傾向にあるので、物理的な課題（手狭な校舎や運動場など）や組織作りにどう向かい合っていくかも育友会活動の課題である。 ○ 「地域とのかかわりの大切さを児童に伝えるのは我々親世代」をキャッチフレーズにし、我々親世代が故郷久米を知り、子どもたちに伝える機会をと考えていたが、保護者を含む親世代全体まで浸透するのはまだまだだった。PTA 活動への協力への温度差がある。子どもたちのみならず地域全体の貢献になるという意識で「できることをちょっとずつみんなで」取り組めたらよい。 ○ 来年度の久米小開校 150 周年に向け、各部がより積極的な活動に取り組みたい。これを機会に、組織全体や活動の意義を見直し、活動の効率化や会員全体の活動平準化等にもさらに力を入れたい。 |
|--------------|---|

| | |
|------|---|
| 活動内容 | <p>〈各種会議〉</p> <p>多くの家庭が共働きの中、コロナ禍以前の全ての活動を実施できるかは、時代にそぐっていないという判断の下、会議の効率化を図った今年度であった。以前は多くの会議を集まってはしていたが、育友会総会、育友会理事会、各部部会など、SNS や配信アプリを利用し、会議の精選をしているけれども、多くの会員の意見を聞く会議が実施された。</p> <p>〈各行事〉</p> <p>5月のスポーツフェスティバル、8月の夏祭りバザー、10月の育友会バザーを中心に活動が展開できた。子どもたちのために、学校のために、献身的な会員が多く、積極的に取り組めた。</p> <p>スポーツフェスティバルは、半日開催で全学年での開催が難しいこともあり、以前の運動会ほどの準備はない。しかし、校区が広い割に学校近くに駐車場を確保できない課題のため、育友会が周南公立大学に依頼して駐車場を借り、バスを貸し切り、会員等をピストン輸送した。</p> <p>バザーも、全学年一斉にというのも難しいため、コロナ以前のような飲食全て解禁とはせず、子どもが楽しめることにコンセプトをおいて実施した。子どもたちへのビンゴゲームは好評だった。また、バザー内での「ポップコーン」が人気で長蛇の列ができた。</p> <p>〈150周年に向けて〉</p> <p>来年度の150周年に向け、育友会会長を会長に据え、準備委員会を立ち上げて、準備している。今後、さらに広く実行委員を会員から募り、来年度の150周年をお祝いしたいものである。</p> |
|------|---|

<写真・資料>



育友会でも積極的に取り組んでいる環境整備



運動会（スポーツフェスティバル）は学校と協力する



学校で行う夏祭りは地域の大きなイベント



学習田での稲刈りも地域と育友会で協力する



読み聞かせで児童とつながる



子どもファーストな育友会バザー



子どもたちのために何ができるか話し合う会議



育友会員も一緒に、学習田でとれた餅米で餅つき